

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第550回北九州地区小児科医会10月例会

日時：2018年10月18日（木）19:00～20:30
場所：北九州市立商工貿易会館 2階 多目的ホール
演題：「子ども達の受動喫煙と加熱式タバコの二次曝露の実態と対策」
演者：産業医科大学 産業生態科学研究所
健康開発科学研究室 教授 大和 浩 先生

第551回（第49回北九州子どもこころ懇話会と合同）

日時：2018年11月14日（水）19:30～20:30
場所：小倉医師会館 4 階会議室
演題：「こどものココロに寄り添う
～“悩み”と“病”の見分け方～」
演者：北九州市立総合療育センター
児童精神科 山口 若菜 先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

産業医科大学小児科セミナー

日時：2018年10月25日（木）18:00～
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室
演題：小児の放射線診断と治療 ～最新の話～
演者：産業医科大学放射線科 林田 桂子 先生
産業医科大学小児科 本田 裕子 先生

※10月はカンファランスはお休みです

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2018年11月19日（月）19:00～
場所：産業医科大学大学2号館2階 2201教室
演題：高度高TG血症を呈する高カイロミクロン血症の診断と治療の実際
演者：産業医科大学小児科
池上 朋未 先生、桑村 真美 先生
齋藤 玲子 先生、山本 幸代 先生

産業医科大学小児科セミナー

日時：2018年11月29日（木）18:00～
場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室
演題：2年間の産業医生活を振り返って
～臨床・研究・産業医全部してみました～
演者：産業医科大学小児科 石井 雅宏 先生

その他講演会などのご案内

八幡小児科医会講演会

日時：2018年10月11日（木）18:45～
場所：千草ホテル
特別講演：「4種混合ワクチンの今とこれから」
演者：福岡看護大学 基礎・基礎看護部門
基礎・専門分野 教授 岡田 賢司 先生

第1回北九州市発達障害者支援アセスメントツール研究会

日時：2018年10月18日（木）19:00～21:00
場所：北九州市総合保健福祉センターアシスト 6階
61会議室（北九州市小倉北区馬借一丁目7番1号）

第30回北九州てんかん懇話会

日時：2018年10月19日（金）18:45～
場所：リーガロイヤルホテル小倉 4F ダイヤモンド
演題1：「てんかん発作後も脳波所見が増悪し、
発達が停滞した1例」
演者：小倉医療センター 小児科 医長 渡辺 恭子 先生
演題2：「NCSEの診断にASLが有効であった
1例（仮）」
演者：九州労災病院 脳神経外科 白水 寛理 先生
徳永 聡 先生 芳賀 整先生

第416回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2018年10月25日（木）19:00～
場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター
演題：未定
演者：小倉医療センター 先生

保険診療メモ

フェリチンと血中ケトン体：血液化学検査の包括部分から考える

一線小児科医の理解が十分ではない、血液化学検査をめぐる審査の視点を解説します。

医科点数表の第3部 検査・D007 血液化学検査 (生化学検査I) には1. 総ビリルビンから総蛋白、尿素窒素、クレアチニン、電解質、脂質、クレアチンキナーゼとつづき、鉄、不飽和鉄結合能 (比色法)、鉄結合能 (比色法)、血中ケトン体・糖・クロール検査 (試験紙法・アンプル法・固定化電極によるもの) など29項目 (各11点)。2. リン脂質 (15点)。3. 肝酵素 (AST、ALT)、総コレステロール、HDLなど5項目 (17点)。4. 蛋白分画、LDL (18点)とつづき、8. マンガン (27点) までに40項目を超え、28. フェリチン半定量・定量 (111点)、そして、62. 25-ジヒドロキシビタミンD (400点) まであります。

そして、その注には「1回に採取した血液を用いて本区分の1から8までに掲げる検査を行った場合は、検査項目数に応じて算定する。イ 5-7項目 93点、ロ 8-9項目 99点、ハ 10項目以上 112点。」とあります。いわゆる包括算定です。診療所では4項目以内の個別算定がみられますが、大学や病院ではほとんどが10項目以上の検査が施行されて、ハ (112点) でマイナスになりうる算定がされています。医療の質と経済性のバランスを各施設・医師の判断にゆだねて、皆保険制度を維持するための仕組みといえます。

なお検体検査判断料 (D026) が、生化学的検査 (I)、同 (II) -内分泌、腫瘍マーカーなど、免疫学的検査、微生物学的検査の区分ごとに144-150点、月1回算定されます。

そこで次のような約束事ができます。

1. フェリチン半定量・定量 (111点) については、鉄欠乏性貧血 (疑い) の病名があっても、血清鉄と不飽和鉄結合能 (比色法) あるいは鉄結合能 (比色法) が検査されていないければ、その算定は認めない。まず包括項目内で診断すべきで、それ以上の鉄代謝にかかわる臨床的意義について、一定の間隔で、認めるということです。

フェリチンは、悪性疾患や膠原病、血球貪食症など組織破壊や網内系賦活化 (サイトカイン上昇) を反映して有用ですが、臓器特異度に乏しく、他の検査が同時に行われていれば問題視されます。フェリチンの保険点数 (114点) は、単独で生化学的検査 (I) の1-8に含まれる検査10項目以上 (112点) にほぼ相当することをあらためて意識してください。

2. たとえ糖尿病疑いがあってもHbA1C (49点) -D005 血液形態・機能検査-が査定されて納得がいかないことがあるでしょう。血中グルコース検査がなければ査定されるのは同様の論理です。生化学的検査の包括部分で血中グルコース値の上昇を認めて、次に行われるべきと考えます。

3. 血中ケトン体をめぐって

「脱水や代謝性アシドーシス、ケトーシス」と「鉄欠乏性貧血」とはまったく異なる病態ですが、ともに小児とくに乳幼児によくみられて、保険審査のうえでも共通する問題があります。

乳幼児が脱水におちいりやすいこと、その際、低血糖やケトーシス (ケトン性低血糖症) をともなうことから、輸液内容と速度、投与量は小児科診療の入り口です。飢餓 (空腹) 状態の血糖維持としての糖新生、さらに脂肪酸代謝によるアセト酢酸などのケトン体利用がホメオスタシスの一端とされていますからケトン体の上昇の把握は重要です。その場合、尿中ケトン体の検出と血中ケトン体の検出があります。ここでも、生化学的検査 (I) の包括部分に血中グルコース、ケトン (電極法) があることに注意してください。

まずは、尿を採取して試験紙を用いて判定する方法が行われて、ケトン体 (試験紙法-ニトロプルシドNa発色法) が、蛋白定性、グルコース、ビリルビン、潜血反応、尿細菌、白血球、アルブミンなどと一緒に検査されます。このD000 尿中一般物質定性半定性検査 (26点) は1回につき所定点数を算定できますので、治療 (輸液) すれば、その効果判定と考え、2回の検査が認められます。なお尿定性検査にかかわる判断料の算定はできません。

脱水により採尿できないとき、あるいはより深刻な病態では血液中のケトン体上昇を検査する必要がありそうですが、所定点数と判断料でかなりの負担増となるため、適応が問われます。さらにこの場合にも、血液生化学的 (I) D007には包括範囲1と包括範囲外の10. 血中ケトン体があります。前者は、血中ケトン体・糖・クロール検査 (試験紙・固定化酵素電極) で、実際には固定化酵素電極法: 「フリースタイルプレジジョンネオ (ABBOTT社)」などが、糖尿病管理のために普及しているようです。血中ケトン体は、糖代謝異常の代表、糖尿病での脂肪酸利用増加を反映するからです。さらに、生化学的検査の包括範囲外にある10. 血中ケトン体 (30点) は、吸光光度法によりケトン総量、アセト酢酸、ヒドロキシ酪酸などを測定してえられます。血清あるいは血漿を検体にするにより測定所要時間に差があるようです。20. ケトン体分画 (59点) には、細胞内エネルギー低下と肝臓内ミトコンドリア機能、アセト酢酸 / ヒドロキシ酪酸比と肝予備能指標などの評価の意義あるとされていますが、上記のようにケトン総量と分画はほぼ同一方法で行われています。保険請求上は「ケトン体およびケトン分画の検査を併せて実施した場合は、ケトン分画の所定点数のみ算定する」ことになり、適切な傷病名が必要です。

このように見ていきますと、いくつかの総合病院救急外来から尿検査や生化学的検査の包括部分をこえた血中ケトン体の請求が多くみられるのは気がかりです。重篤な病態の把握を意図して選ばれた例に行われているのでしょうか? さらに、37. 血液ガス検査 (140点) で代謝性アシドーシスの評価をすることに重複はないでしょうか? 検討の余地があります。

(福岡県小児科審査員連絡会)

役員会報告 (10月4日：木曜日)

協議事項・報告事項

- ① 第24回福岡地区小児科医会との懇親会(9月29日)
福岡市で開催されました。各地区より9名ずつの参加があり、5演題が出され協議しました。
- ② 第55回北九州地区小児科医会総会 (平成31年1月20日)
平成30年度総会に向けて調整を行っています。
- ③ 日本小児科学会名誉会員の推薦について
今回は該当者はなしです。

委員会報告

1. 学術委員会報告：神菌淳司

今後の講演会の予定です。講演会一覧参照ください。

11月14日(水)は北九州子どものこころ懇話会と合同で行われる予定です。曜日が通常と異なりますので、ご注意ください。

12月はワクチン関連で、ワクチン訴訟の問題などについて弁護士の先生に講演を依頼する予定です。

2. 小児在宅医療委員会：西村慎太郎

小児在宅医療の実態調査、および意識調査をおこなうためのアンケートを準備中です。準備が整いましたら基幹病院、開業医(小児科、内科)の先生方それぞれに配信させていただく予定ですので、その節はご協力をよろしくお願い致します。